

パートナー SS

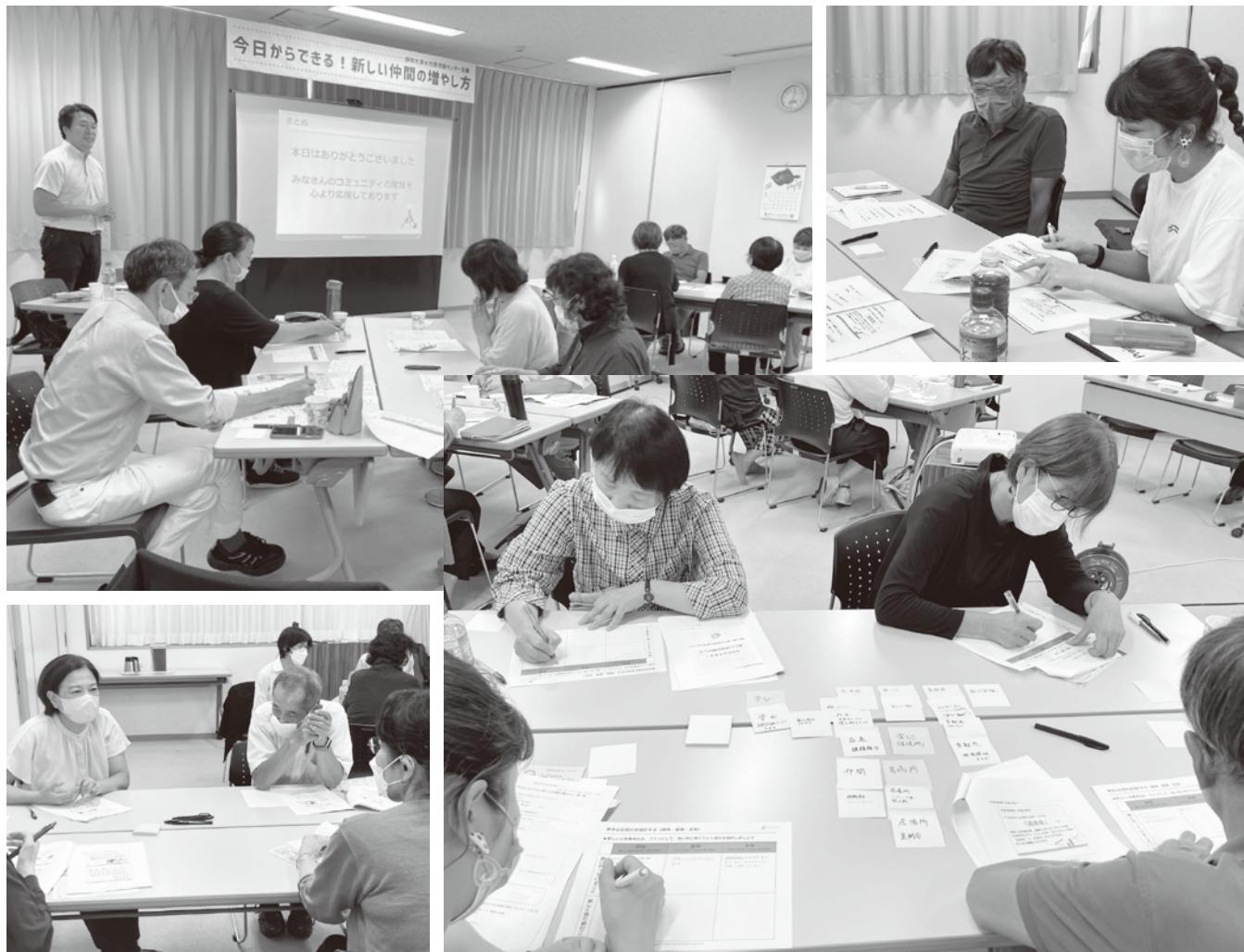
市民活動はまちの未来を創造する

特集

「きょうだい」
そのもうひとつの意味
～障害や病気のある兄弟姉妹
をもつ人たちを支える～
(2,3ページ)

巻き込み、育てる、新たな仲間作り

講座 「今日からできる！新しい仲間の増やし方」 開催



清水市民活動センターが利用登録団体を対象に毎年おこなっているアンケート調査では、高齢化、会員減少、人材育成について悩んでいる団体が多く、新たな仲間づくりと事業の担い手をどのように確保していくのかが共通の課題となっています。

9月23日、C R ファクトリーコミュニティマネジメント認定インストラクターであり、地域で自治会長としても活躍中の田形勇輔さんを講師に迎え、活動に新たな仲間を巻き込みその担い手となる人材を育てること、をテーマに講座をおこないました。

新たな仲間をコアメンバーに巻き込んでいくには、一緒に汗を流し楽しさを共有することが大事。講師の紹介に「なぜ？」と感じたB B Qインストラクターという資格も、仲間を動かし、楽しさを分かち合うため活かされていると納得しました。

コロナ過を機にS N Sの活用が一層進みましたが、より良い組織・コミュニティ作りには、時間や機会を意図的に増やし、相互理解と関係性の積み重ねが必要という田形さんの結びの言葉を、これから活動に反映させていきましょう。

「きょうだい」について知っていますか？

ケアが必要な家族の世話をしている「ヤングケアラー」という存在が社会的に認知されてきました。それとともに「きょうだい」にも注目が集まっています。このひらがな表記がどのような方を指す言葉か知っていますか？

「きょうだい」または「きょうだい児」とは、家族の中で病気や障害のある兄弟、姉妹がいる方のことです。

当事者が1人で抱え込み悩むことも多いと聞きますが、「ヤングケアラー」も「きょうだい」も、その大変さを話し合い支えあう自助組織も増え、その思いや現状を発信する機会が増えています。

今回は、県内で「静岡きょうだい会」を立ち上げ、日々精力的に活動している代表の沖侑香里さんにお話をうかがいました。



**静岡きょうだい会
代表：沖 侑香里さん**

静岡きょうだい会

「きょうだい」のための自助グループ「静岡きょうだい会」を立ち上げたのは、2018年秋でした。団体の中では、これまでの経験や抱えている思いや悩み、そして将来への不安などを語り合う座談会や、制度や福祉サービスを学ぶ勉強会を開催してきました。



▲ 県内各地からの参加者コロナ前のきょうだい会。
現在はオンラインが中心です。

今は、コロナの影響もあり数ヶ月に1回のペースでオンライン開催しています。参加者の安全を考え、6人～7人の定員でおこなっています。その他、東海北陸地方の4団体で、半年に1回コラボできょうだい会を開催しています。一緒に開催することで交流の幅が広がりましたし、運営者同士で定期的に会って悩みを話す機会が持てるることもあります。



▲ オンラインによる東海北陸のコラボ企画
今年の8月に5回目を開催（団体FBより）

見落とされる「きょうだい」の気持ち

私にも、障害のある5歳下の妹がいたので、特別支援学校、児童発達支援、こども病院等で、様々な障害があり、その方たちへのサポートがあることは知っていました。また、もちろん妹のことは大好きだったし、かわいいと思っていました。一方で、人の目が気になったり、将来への不安を感じることもありました。それでも、「親に言ったら悲しむかもしれない」と一人で抱え込ん

でいました。また、「伝わり方によって、妹の存在を否定する言葉になるかもしれない」という悩みもつねに抱えていました。

周囲の大人からは、そういう気持ちへのフォローはなく、「妹さんの分まで頑張って」、「お母さんを支えあげて」、「しっかりしていて偉いね」というポジティブな声掛けばかりでした。

それも必要なことですが、「きょうだい」にはポジティブとネガティブの両方の気持ちがあって、片方は見落されてしまうんです。そしてポジティブな部分は、周りの大人は見えやすいんです。

会の中でも、「初めて素直な気持ちを話せました」「ずっと1人で抱えていました」という気持ちを耳にすることがよくあります。

きょうだいさんがもちやすいきもち



米国きょうだい支援プロジェクトのDonald Meyerさんがまとめたものをアレンジしています

▲ きょうだいがもつ気持ちも様々

資料画像提供 NPO法人しぶたねさん

「ヤングケアラー」という言葉

「ヤングケアラー」という言葉が日本でも浸透し始め、実態調査によって政策に反映していく動きは、大きな1歩だと思います。実際に、この言葉を知って、情報にアクセスするきっかけになった子もいます。同時に、「ヤングケアラー=かわいそうな子、支援が必要な子」というイメージも持たれやすくなっている印象があります。

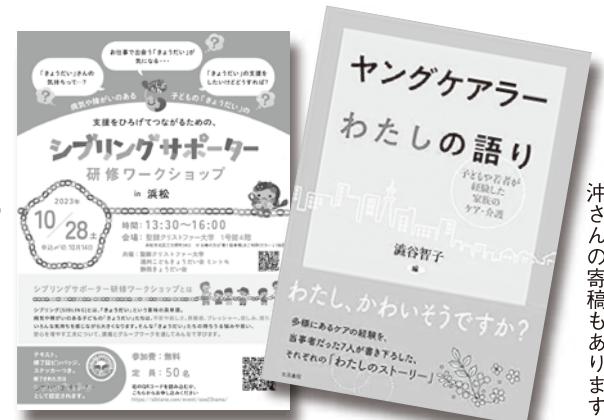
積極的に家のことを手伝っている子もいれば、行き場がない感情に押しつぶされそうになっている子もいます。支援者や地域の人が、身近に困りごとを抱えている子どもがいると気づいた時に、もしかしたらサポートが必要かもしれないと考えるきっかけとなってほしいです。



▲ 講演会で「ヤングケアラー」について話す沖さん

「きょうだい会」…これから

今後は、オンラインによる活動を継続しながらも、対面での活動も再開していきたいと考えています。今まで、富士市を中心に活動してきましたが、県内の他の地域でもきょうだい会をやってみたいです。ここ数年、「ヤングケアラー」が注目されてきましたし、私も講師として依頼されることもあります。ただ、「ヤングケアラー」と「きょうだい」は似ているところもあれば、違うところもあります。実際にケアを担っていない場合でも、「きょうだい」としての不安や葛藤、悩みがあるということを知ってほしいです。今はきょうだい同士の座談会が中心ですが、元々は支援者や保護者に「きょうだい」の抱えている課題を伝えたいという想いからはじまった活動です。これからも様々な立場の方たちと「きょうだい」についての理解を深め、社会全体の中で何ができるのかを考えていきたいと思っています。



沖さんの寄稿もあります



NPOワンポイント インボイス制度とNPO

新しい仕入税額控除の方式、インボイス制度がスタートしました。

消費税は、国内でおこなう物や役務を提供する事業の対価に対して課せられます。

ただし、年間収入1000万円以下であれば免税事業者となるので消費税の申告、納税は不要になり、簡易課税で申告、納税している事業者は収入だけで計算できるので、この制度による影響はありませんと言えます。

一方課税事業者(団体)は、仕入額控除のためには適格請求書(インボイス)の付いた請求書等が必要になるので注意しなければなりません。

また免税事業者であっても、今後は取引相手から適格請求書を求められる可能性もあり、消費税課税事業者となり適格請求書発行事業者の登録を迫られることがあるかもしれません。

税金にはNPOの特例といったものではなく、登録をすれば収入に関わらず納税の義務が発生します。登録の是非については、結論を急がず団体の状況や今後の計画を見据え、十分検討してください。



清水市民活動センター17周年記念事業
市民活動
FESTA 2023
17th特設HP

市民活動に出会ったら
ちょっといいことが
ふえた！

QRコード

恒例！

「活動紹介パネル展・コンテスト」

期間：10月7日(土)～11月26日(日)

パネルは随時Facebookでも紹介します。来館またはFacebookによる投票で大賞が決まります。そして、全てのパネルは特設HPで見ることができます。

活動紹介

「市民活動ブース@ジロチョウマーケット」

日時：11月26日(日) 10:00～15:30 小雨実施

今年も市民活動センターを飛び出し、いろいろな市民団体が次郎長通りで団体の活動を紹介します。

詳しくは17周年特設HPでご確認ください。

階段展示企画

「教えて!!

市民活動と出会ってふえたちょっといいこと」

期間：10月7日(土)～11月26日(日)

市民活動を始めたことで感じた
「ちょっといいこと」を
リレー形式で紹介します。



しみず・コレなあに？

その58

道の向こうは山梨県



江戸時代、甲州産の年貢米は川船で富士川を下って運ばれ、清水湊（港）で千石船に積み替えられて江戸に向かいいました。清水港に続く巴川に沿った道路の向こう側の土地2000平米余は、かつて積み替えのためその米を置いた場所です。明治になっても山梨県の運輸会社がこの土地に出張所を置いたこともあります。

駐車場のほか医院などが建っていますが、現在も山梨県の所有地です。

